

2021年11月28日(日)の添田美和少佐のメッセージ

イザヤ書 51:4~11 「揺るがない希望の光を待ち望む」

YouTube 動画をご視聴いただき、ありがとうございます。こうして皆さんと聖書のみ言葉をお分かちできることを大変嬉しく思います。今年も早いもので11月28日からアドベントを迎えます。「アドベント」はラテン語の「到来」来るという意味で、イエス・キリストがこの世に来られた意味を思い巡らしながら、救い主の誕生を祝うクリスマスに備える期間です。今年は、皆さんどのような備えをしておられるでしょうか？ 私は、気に入っているイエス様の誕生の飾りを玄関に飾ったり、姪が作ってくれたクリスマスカードを飾って、聖書のみ言葉からクリスマスの備えをしています。昨年から新型コロナウイルス感染症が日本だけでなく、世界中に広がり、ニューノーマル(新しい普通)と呼ばれる生活をして、私たちの日常生活は一変しました。現実を受け入れつつも、長引くこの状況に疲れを覚える方もあるでしょう。だからこそ、私たち信仰者には強い味方の神様がいつも私たちとともにいてくださって、また変わることはない方であることを確認しつつ生活する必要があります。

救い主イエス・キリストこそ私たちの主であり、またイエス様にこそ希望があることをいつも確認する必要があります。今も目には見えませんが生きて働いてくださる神様が聖霊を送り続け、困難な状況に苦しむ私達と共にいてくださることを再確認する必要があります。

この時ご一緒に主イエスの誕生を待ち望む備えをし、光である主イエスに心を向けましょう。今朝のみ言葉はイザヤ書 51 章からのみ言葉です。イザヤ書 40 章~66 章には神の慰めのメッセージが記されています。最初に心に留めたいことは救いの確信がわたしたちに与えられているということです。「神の約束」神の民を自由にし、もう一度神の民に与えた地に連れ帰ると語られます。預言者イザヤは神が遣わすことを約束した救い主イエス・キリストを詳しく描きました。

イザヤ書 51 章 1~3 節を見ると、2 節にイスラエルのルーツである信仰の父であるアブラハムとその妻、サラを思い起こすようにと記されています。主はアブラハムに多くの子孫を与え、土地を与え、祝福の基とするという約束をしました。人間的には全く希望がない、不可能に思える状況の中で、主の約束を着々と実現して、子孫を増加させていったのです。

同じように、主は土地をも祝福されると約束されたのです。

3 節、廃墟となったシオンが、エデンの園のように新しく創造されるとの約束が記されま

す。

これから起ころうとしている救いの出来事の「形」を示しています。新しい救いにおいては、天地創造の際に人間に与えられていたエデンの園が、新しい救いにおいて、神の子の誕生によって実現されるというのです。ここに、キリストの受肉による救いの希望があらわされています。神の子イエスの誕生、新しい天と地のビジョンが描き出されています。

4節以降、更に具体的に、新しい救いの事実について記されています。神の正しさを追い求め、主を尋ね求める者を4節には「私の民、私の国民」と親しく呼ばれ、目をかけ、愛が示されていることが分かります。注目すべきことは、4節で主ご自身から出ると言われている教えとは、全ての民の為に与えられる新しい教えです。古い教えではなく新しい教えです。

また、主がもたらされる「光」とは、メシア(救い主)であり正しさを人々に表すのです。

ここに描き出されたビジョンは紛れもなく、キリストが実現する救いの事実そのものです。

なぜなら、キリストは限られた人の為だけではなく、全ての人々(人間)の「光」としてこの世に来られ、新しい「教え(律法)」を愛によって完成したからです。今日私たちは、主が数千年前イザヤを通して世に与えられた約束の成就の中に生きるという、何ものにも比べる事ができない祝福を喜ぶことができるのです。2番目には「待つ」ことには希望があるということです。「待つ」ことはとても忍耐がいることです。しかし、待つことは信仰者にとっては、希望に向かっているということです。

5節には「島々はわたしに希望をおき、わたしの腕を待ち望む」というみ言葉があります。

「望みをおき」には、カーヴァーという動詞が用いられていますが、これは単純に「待つ」という意味の言葉で、それが転じて「希望する」という意味にもなります。この「カーヴァー」は、イザヤ書40章31節「主に望みをおく人は、新たな力を得、鷲のように翼を張って上る」にも用いられている言葉です。「待つ」ことは受動的行為ではないのです。受け身でない、「待つ」ことは、自らの力を捨てて、空手で主に向かい合うからこそ、神様からやって来る救いにあずかることができるのです。人間側の行為によって希望をいよいよ確実なものとするのです。

大切な事は、これらのみ言葉が私たちにアドベントの守り方を教えていることです。アドベントの期間、信仰者は主を「待つ」ことに徹するのです。キリストがすでに到来し、今、到来し、そして、将来到来するという、深い希望が生まれるのです。「待つ」ことを通して与えられる深い希望は、6節によれば、たとえ天地が消えうせたとしても無くなる

ことがない。待つ者にとって主の「救い」と「恵みの業」は決して絶えることがないというのです。イザヤ書 40 章 8 節「草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」。神の救いと恵みの業は共に、神のまことの言葉であるキリストによってこそ明らかになります。言葉であるキリストが不滅である為、キリストが携えている救いも恵みの業も絶えることがないのです。この福音こそ、信仰者は天地が崩れ去るまさにその時にも、恐れることがないのです。主イエスご自身の言葉が、そのことを確証しています。マタイによる福音書 24:35 主イエスは言います「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

主イエスの言葉は滅びない、そして、主ご自身も、滅びるところか死をも滅ぼして、市に打ち勝って、永遠に生きておられ、私たちに永遠の命を与えてくださるのです。また私たちの所に救いを完成するために終わりの時にやって来られます。この事実を信じる信仰者は、アドベントの季節、天地が滅び去る終わりの時を恐れるどころか、まさにその時にやって来られる主イエスを「ただ待ち望む」のです。新しくもたらされる救いは、天地が崩壊しても、私たちを恐れに引き渡すことなく、むしろ私たちを固くすえ続ける。私たちは今の世に生きて、一体何を恐れる必要があるのでしょうか。

7 節後半「人に嘲られることを恐れるな。ののしられてもおののくな。」とあります。

「おののく」という動詞の言葉が、直前の 6 節「わたしの恵みの業が絶えることはない」にも用いられていることは興味深い点です。つまり、天地が崩壊しても決して破壊されない神の恵みの業があるのだから、あなた方の信仰も決して無くならず破壊されないという大きな励ましが聞こえてくるのです。結局、信仰者を責め悩ます人々の悪意、嘲笑は、天地が滅び去るのを待つまでもなく、8 節にあるように、「しみに食われ」あるいは「虫に食い尽くされる」ように滅び去ると言います。その間、私たちにもたらされた救いの力は、消して絶えることなく私たち信仰者を支え続けるのです。

次に 9 節～11 節に心を向けたいと思います。ここには信仰者の歌が記されています。1～8 節までの救いの約束に続いて、信仰者の群れの歌が記されます。9 節「奮い立て」と繰り返し言葉が記されています。この人々の声は、「覚めよ」と訳すこともでき、神を眠りから揺り起こすような強い願い、すみやかに救いを希望し求める声とも理解できます。神の約束は固い、しかし、救いが完成されるまで、人々は祈り続けなければなりません。私たちは祈り続ける必要があります。人々の嘆きのような願いは、漠然としたものではなく、「奮い立て」という訳が示しているように、具体的です。戦いの時の掛け声に似た響きで、救いを願うことを通して、主ご自身が滅びの力と戦うことを希望し求めているのです。ここには、過去の救いの出来事が将来のより大きな救いの出来事を指し示す「型」として記されているのです。

主イエスキリスト到来、究極の救いへと私たちの目を向けさせられるのです。記されている過去の出来事は、罪の泥沼の中で瀕死寸前であった人間に対して、思いがけず救いの道がひらかれることになったという驚くべき救いが語られています。罪と言う深い海に飲み込まれて死に瀕していた人間は、キリストご自身が、その深い海に飛び込んでくださり、私たちの手を引っ張ってすくい上げてくださった。救いの道を現されたという途方もない奇跡を起こしてくださったわけです。そのお陰で、ただ恵みによって生かされているのです。

今日与えられているみ言葉の真実は、私たち人間にとって、将来の救いの形は未知のものであるにも関わらず、その輪郭がすでにイザヤの預言を通して過去の救いの中に存在していたという事実です。私たちは、いにしへの救いを見つめることで、キリストによる受肉を通して始められた神の救いの偉大さを豊かに知ることができます。将来における希望の形が、決して取り消されることのない過去の歴史に記されているため、私たちは希望が見いだせない時にも、挫折することはないのです。神がすでに始められた救いの御業は、単に過去に留まっているのではなく、将来の救いの完成に向かって、私たちに、アドベントの時期にあって、特に私たちの方向に向かって進んでいるのです。その確信と希望がキリストであり、もっとも偉大なしるしがキリストがこの世に来てくださったという事実です。この決定的に確証された神の救いは、たとえ天地が滅び、信仰者が苦しめられ罵声を浴びせられる時にも、絶えることなく進み、私たちをエデンの園へと導くのです。その約束が与えられています。この神の絶えることのない恵みの業を思い巡らしつつ、救い主キリストの来られるのを「待つ」者としてアドベントの時を過ごしたいものです。今年のクリスマスも希望の光である、主イエス・キリストを心より待ち望みましょう。待つことを楽しんで今年のクリスマスを迎えたいと思います。